

贖いの恵み(創22:9-14)

神様の恵みで信者になった私たちは、自分が思うよりはるかに大きな祝福を受けています。神様がともにおられることは、測り知れないほど大きな祝福であると、聖書には示されていて、聖霊が教えてくださっています。神様は信者のひとりひとりに、現場灯台として暗やみの現場に光を放つように用いる計画を持っておられます。ところが、実際には、条件、環境、状況によって揺れることが多くあります。揺れてしまういちばんのポイントは、サタンにだまされて、自分自身のことを正しく見ることができないからです。信者は、いつもキリストによる贖いの恵みに感謝して、感激を覚えているなら、揺れることなく、どんな問題でも乗り越えて、現場灯台として用いられるようになります。贖いの恵みを根本から感謝して、そこから生まれる感激を味わっているなら、無敵です。きょうの本文は、その恵みを示す代表的な場面です。



アブラハムが100歳で生まれたひとり子イサクをつれてモリヤ山に礼拝に行き、いけにえとして息子をささげようとしたときに、御声が聞こえ、息子の代わりに雄羊が備えてあることがわかりました。そこで、死ぬべきイサクの代わりに雄羊が殺されて礼拝が成立したのです。本来、私たちは自分自身が死ぬべき存在ですが、身代わりにキリスト・イエスが殺されることによって、滅びがまぬがれるようになりました。旧約には、そのことが預言されています。特にイザヤ53:4-5では、私たちの罪とがのために死ぬキリストの贖いの恵みがシンプルに預言されています。そして、イエス様は十字架で、完ぺきにこの預言を成就されました。イエス様がご自分の血を流し、からだを引き裂かれ、罰せられて死んでくださることにより、死んで地獄に行くべき私たちが死と滅びをまぬがれるようになったのです。自分がどんな存在なのかをイエス様の十字架を通して確認しましょう。自分は自分で思う以上に滅びの存在です。神様を離れた罪人で(エペソ2:1)、根本から滅びるしかない存在です。生き方すべて、神様からの怒りが留まるしかありません(エペソ2:2,3)。その私のためにイエス様が身代りになって、罰せられ、

死なれました。イエスの十字架の苦難を見上げ、私の代わりだと告白しましょう。私は、贖いの恵みでなければ、希望はまったくない、罪人だと認めましょう。世の中では、人には希望があると、自分中心に考えるようにさせます。しかし、自分の身代りに罪のない神様ご自身が悲惨な死に方をしてくださなければならぬ罪人なのだと認めましょう。

そして、その自分の身代りに、イエス様が十字架で贖いの犠牲となってくくださったので、罪、のろい、サタンから完璧に解放されました。そして、神様が内におられ、永遠に離れない、いのちの祝福が与えられています。これを確認するのが聖餐の告白です。パウロは、自分が自分であることは神様の恵みだと告白しました。多くの信者は自分のなにかによって人生が左右されると誤解しています。それでは、自分から自由になれません。神様ご自身であるキリストが死ななければならぬほどの存在で、イエス様が身代りに死んでくださった、そこにしか希望がないと認め、心からの感謝感激がわきあがるようになることが、クリスチャンの基本です。贖いについて深く考えてみましょう。恵みを感謝して、賛美しているなら、自分自身から自由になり、比較意識からも自由になります。

罪を犯して刑務所に入ったとしても、罪の処理はできません。法律や良心では解決しないのです。それゆえ、罪のないイエス様が贖いの犠牲になってくださいました。身代りになって死んでくださなければ、罪の解決は不可能です。イエス様が代わりに罰せられ、血を流され、死なれることによって、無条件に神様が赦してくださいます。ですから、イエス・キリストを信じて、イエス・キリストのほうに行きなさいと言われるのです。イエスの十字架を信じて受け入れるなら、神様に赦されます。そのとき、自分も自分自身を赦すようになります。自分自身から自由になりましょう。贖いの主イエス・キリストを信じるだけで、新しく造り変えられ、新しく生まれるようになります。これを認めましょう。それが、贖いの恵みを感謝することで

す。

現場では、人間同士が比較して、競争し、ねたみ、優越感、劣等感を持ち、問題が起きます。そのようなこと、まことの人生の問題と人生の幸せ、希望とは、まったく関係がないのです。ただ贖いの恵みにしか希望はありません。神様の目から見たら、すべての人が罪人であり、義人はひとりもいず、生まれながら神の御怒りを受けるしかありません。神様は知恵ある者、強い者ではない者を選ばれました。それは、人が神様の御前で誇ることがないようにさせるためです(1コリント1:27-31)。正しいから義なのではなく、キリストが義なので、神様が義と認めてくださいます。

贖いの恵みによって、自分自身から自由になると、現場で灯台として、キリスト・イエスと同じ心構えを持つようになります(ピリピ2:5-8)。これが祈りの課題になるのです。キリスト・イエスと同じ心構えとは、他の人を自分よりすぐれた者と見ることで、地獄に行くしかない罪人として見るのではなく、神様が救い出されるたましいとして、愛をもって

見るようになるのです。これが十字架の精神です。他の人は、神様が救われるために備えられているたましいだと見るのです。神様はイエス様に地獄に行くひとりひとりのために犠牲を払うようにされ、イエス様はそれに従われました。それが服従、従順です。神様が愛されている尊いたましいで、自分よりすぐれていると見て、犠牲も払いつつ、時には苦難も覚悟して、神様のみこころに従順にすることが、キリスト・イエスと同じ心構えであり、十字架の精神です。未信者の救いのために残りの人生を生きなさいと言われる神様の御声に従順にアーメンと従いましょう。自分が贖いの恵みによって救われたという感謝、感激を持っているなら、このイエス様と同じ心構えを持って、他の人を自分より尊いと見なすようになるでしょう。それが、現場灯台のあり方です。そのとき、なにがあっても揺れることはないでしょう。

(<http://jremnant.com> に音声と動画が出ています)

創世記22:9-14 贖いの恵み

なるほど/現場でサタンが私の弱さや環境などをもって信者を揺るがそうするとき、信者はイエス様の贖いの恵みを思い出して感謝し又感激をもって、自分自身から自由になり、比較意識からも自由になると、現場灯台の答えを味わうようになる。ならば/贖いの恵みを介して、イエス様と同じ心構えになることができるように祈ろう。(ピリピ2:5-8) 未信者の救いのためにという聖なる理由に従おう。

インマヌエル教会聖日メッセージ祈り文(2019年2月10日)

1部礼拝: なぜヨルダンを渡らなければならないのか(ヨシ3:1-7)

大きな苦しみにあったり、ヨルダンを渡らなければならないとき、神様が願っておられる姿勢、一緒に、契約のみことばに従って、神様とともに、まことの計画を見つけて信じて行動しますように。重要なことと問題にあったとき、まず生きておられるみことばの流れを確認して、新しく刻印しますように。世の中でどんな問題が生じて、みことばが根を降ろしますように。次世代たちに言う記念碑を立てて、みことばを完全に体質化させて、カナンを征服しますように。今日がヨルダンが分かれるその日になりますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

2部礼拝: 5職分の祝福(使6:1-7)

すべての事件、すべての人の中に神様の計画があることを知って、24時祈りの中で、神の国が臨み、1、3、8の契約の中で、62の生活を味わうようにくださり感謝します。イテロ長老、7人の按手執事、プリスカ勳士、名もなかった執事、ヤング産業人ガイオが味わった25時の答えをこの時代の私が味わいますように。永遠なる神様のみことば、三位一体の神様、天国、私のたましいの前で永遠に残る証人の祝福を味わいますように。これから24時幸せを感じて、力を得て、25時を超えて永遠の座にいますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。